

(ひと) 植田陽子さん 学校看護師の「豊中方式」を全国に広げ

朝日新聞 ひと 2021年8月20日

<https://digital.asahi.com/articles/DA3S15015585.htm>

- > 「学校で働く看護師が辞めないようにしてほしい」。そう上司から言われたのが20年前。大阪府豊中市立病院の看護師から畑違いの教育委員会に異動になった時だ。豊中市では、人工呼吸器などの医療的ケアが必要な子どもを地域の小中学校で受け入れ、学校に看護師が配置されている。だが、その離職率が高かった。「異質な環境で相談相手がなくて孤独だった」と分析し、看護師を集めて意見を聴くことから始めた。どの子でも担当できるようにマニュアルを整え、日替わりで教委から学校に派遣するやり方に変えた。看護師の負担が減り離職率も低下。「豊中方式」として注目されるようになった。
- 隣の兵庫県伊丹市出身。アルバイトをした医院で看護師にあこがれ、大学を中退して看護学校へ。小児科を選んだのは、研修先の病院で、筋力が衰えていく筋ジストロフィーの子が闘病する姿を目の当たりにしたからだ。
- 医療的ケア児は年々増える。6月には学校などに看護師の配置を進める支援法も成立した。地域を越えて学校看護師を支えようと今春、教委を辞めて「ナース・ファイト」という団体を設けた。
- ケア児の訪問診療にあたる医療法人と組み、自治体や看護師への助言、研修に取り組み。「学校看護師を、もっと誇りの感じられる仕事として確立させたい」
- …などと伝えています。

